

歯についての正しい知識を身につけさせ、むし歯予防に対する心構えを育て、予防に対する実践の習慣化を図っていくことは、児童の健康生活維持の面からも欠くことのできない教育活動と考え、「すすんで自分の歯を守る子ども育成」を主題に設定した。

2、研究の基本方針

学校での保健指導を中心として、児童のむし歯予防に対する意識を高め、家庭との密接な連携により、むし歯予防活動の習慣化を図る。

また、基本的な生活習慣を身につけ、生涯にわたり、自己の健康増進に努力する児童の育成をめざす。

- ① 学校における教育活動では、歯についての正しい知識を身につけさせる。
 - ② 児童一人一人がむし歯予防のねらいを持ち、健康づくりに取り組むようにする。
 - ③ むし歯予防のための歯みがき活動の習慣化を図る。
 - ④ 基本的な生活習慣を確立する児童の育成をめざす。
 - ⑤ 生涯にわたり、自己の健康増進に努力する児童の育成をめざす。
- ① 家庭や地域社会との連携では、PTAや学校保健委員会の活動を通して、むし歯に対する啓蒙を行うとともに、研究推進のための協力が得られるようにする。
- ② 学校でのむし歯予防の意識化を図

り、家族全員の協力のもとに実践し、習慣化させるように努める。

- ③ 関係団体（保育所、幼稚園、中学校）との連携強化を図り、一貫したむし歯予防活動が進められるようにする。

3、研究実践の概要

(1) 学級指導での実践

歯の保健指導にかかわる学級指導の授業研究を行い、種々の問題点や指導法について協議し、特に、「ねらい」や「原因の追求」「問題解決の方法」などで、児童のむし歯予防に対する意識を高める手だてで、むし歯予防のための正しい実践方法の工夫・改善にあたっている。

(2) 学校生活での実践

学級指導の時間で習得した知識や技能を確実に身につけ、予防活動の習慣化を図るには、学校生活をはじめ、日常生活を通して継続的に指導を行なわなければならない効果が期待することができない。

そこで、次の事項について計画的に指導を展開している。

- 歯みがき時間の指導
- 個別指導
- 習慣形成のための指導
- 長期休業中の指導
- 歯の日の指導
- 児童活動に対する指導

- (3) 学校と家庭、地域社会との連携
健康家族歯みがきカードによる歯みがきの励行や、各種たより、「親子歯みがきによるむし歯予防」の標語の利

いる。
また、講演会や授業参観を通しての保護者への啓蒙、幼稚園、保育所や中学校との連携を図り、むし歯予防の意識の高揚を図るとともに、学校保健委員会などの組織の機能の充実に努め、家庭、地域社会との連携を深めている。

4、研究の成果と問題点

実践研究二年目の成果と問題点は、(表5)のとおりである。

表5 研究の成果と問題点

	研究実践による成果	問題点
学校における教育活動の面	<ul style="list-style-type: none"> ・ むし歯のおそろしさがわかり、児童のむし歯予防に対する意識が高まった。 ・ 児童の歯に関する知識が深まった。 ・ 給食後の歯みがきが徹底するとともに、歯みがきのしかたがじょうずになった。 ・ むし歯はからだ全体の健康に影響することがわかり、治療する児童が増えた。 ・ 歯みがきが習慣化し、以前より規則正しい生活ができる児童が増えた。 ・ 歯の保健指導の計画が作成され、指導内容や方法についての研究が深まった。 ・ 校内の授業研究により、効果的な指導方法や資料等についての研究がなされた。 ・ 教師の歯の保健指導に対する意識が高まり、教材研究も深くなってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ むし歯予防は自分自身のためであるということが定着していない児童もみられた。(調べられるから、やらされるからやる) ・ 歯みがきの時間の指導を工夫する必要がある。(特に個別指導の面で) ・ 児童会活動を軸とした児童活動が十分でなかった。 ・ むし歯予防活動全般にわたり、児童が自己評価できるような基準を設けたい。 ・ 歯の汚れを落とす効果的な歯みがきの方法や個別指導について研究する必要がある。 ・ 歯の保健指導(学級指導での)の主題やねらい、内容等について十分検討し、系統性を図るとともに精選する必要がある。 ・ 指導資料が十分でなかった。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校保健委員会等の開催により、PTAその他の関係者が研究推進に理解を示し、協力的であった。 ・ 子どもの歯の状況、むし歯予防について保護者の関心が高まってきた。 ・ 授業参観日での、歯の保健指導の授業やむし歯予防のVTR視聴により、食生活の大切さを意識する母親が多くなった。 ・ 「歯みがきカード」「歯の日」の実践等により、家族ぐるみの歯みがきがみられるようになり、家庭内の対話も増えた。 ・ 幼稚園のむし歯予防に対する積極的な協力が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTAや学校保健委員会を通しての家庭や地域社会への具体的な働きかけが十分でなかった。 ・ 長期休業中の家庭での歯みがき状況は、かならずしもよいとはいえない。 ・ 家庭での生活では、食べたらすぐぐがいが、歯みがきということが完全に実践されていない。 ・ 関係団体(特に、保育所や中学校)への働きかけが十分でなかった。